

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人豊橋文化振興財団	
施 設 名	穂の国とよはし芸術劇場	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,846	(千円)
公 演 事 業	15,417	(千円)
人 材 養 成 事 業	6,742	(千円)
普 及 啓 発 事 業	5,687	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ジプシーギター・コンサート「チャボロ・シュミット」	20187月8日	出演：チャボロ・シュミット（ギター）、マヨ・ユベール（リズム・ギター） 他	目標値	525
		主ホール		実績値	405
2	伊藤郁女「私は言葉を信じないから踊る」	2018年7月27日、28日	テキスト・演出・振付・出演：伊藤郁女 美術デザイン・出演：伊藤博史	目標値	310
		アートスペース		実績値	218
3	「チルドレン」	2018年9月29日、30日	作：ルーシー・カークウッド 演出：栗山民也 出演：高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美	目標値	1,230
		主ホール		実績値	745
4	ケルティック・クリスマス・コンサート	2018年12月9日	出演：アルタン、カトリオーナ・マッケイ&スタウト、ステファニー・カドマン 他	目標値	616
		主ホール		実績値	456
5	PLAT小劇場シリーズ	2018年6月2日～2019年3月17日	出演：FUKAIPRODUCE羽衣、劇団こふく劇場、KAKUTA、カンパニー・デラシネラ 他	目標値	2,128
		主ホール／アートスペース		実績値	2,238
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,809
				実績値	4,062

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	高校生と作る演劇『滅びの子らに星の祈りを』	2018年11月3日、4日	脚本・演出：須貝英 出演：公募によるオーディションで選ばれた高校生12名	目標値	636
		アールスペース		実績値	634
2	若手音楽家育成事業	2018年4月20日～2019年3月29日	出演：竹田江梨子、trioFlaP、鷹松李奈、天野あさ子、Le duex mai、鈴木結花、新津くらら 他	目標値	1,232
		アールスペース 他		実績値	1,275
3	演劇・舞踊ワークショップ&レクチャー	2018年4月14日～2019年2月13日	講師：永山智之、橋本昭博、白神ももこ、吉田勘彌、吉田蓑紫郎、桐竹勘次郎 他	目標値	180
		創造活動室A 他		実績値	586
4	ワークショップファシリテーター養成講座	2018年6月23日～2019年2月17日	講師：すずきこーた、柏木陽、吉野さつき、青山公美嘉 ほか	目標値	640
		創造活動室A 他		実績値	541
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,688
				実績値	3,036

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	とよはしアートフェスティバル2018「大道芸inとよはし」	2018年5月4日、5日	出演：Julot、中国雑技芸術団、ゴールデンズfrom大駱駝艦、加納真美、てのひら 他	目標値	15,000
		穂の国とよはし芸術劇場 ほか		実績値	27,000
2	不思議の国のアリス	2018年9月15日～17日	演出・振付・出演：森山開次 出演：辻本知彦、島地保武、下司尚実、引間文佳、まりあ	目標値	480
		アートスペース		実績値	630
3	野村万作・野村萬斎狂言公演	2018年11月2日	出演：野村万作、野村萬斎、石田幸雄、高野和憲、深田博治 ほか	目標値	615
		主ホール		実績値	1,197
4	林家正蔵独演会	2018年11月24日	演目：「松山鏡・蛸坊主」「ねずみ」林家正蔵、「反対陣」林家たま平 他	目標値	540
		主ホール		実績値	369
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	16,635
				実績値	29,196

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

平成30年度の助成対象事業について、当初の予定通りに遂行することができた。

演劇・舞踊・音楽等の舞台芸術を中心とした芸術と文化と人との出会いを生み出すことで芸術文化の振興を図るとともに、市民の交流促進と創造活動のための拠点となり、東三河地域の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るという劇場ミッションに基づき、公演事業では演劇・舞踊・音楽といった分野で東三河市民に優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供し、多様な価値観の存在を紹介し、視野の広い世界観、柔軟な人間観の形成に寄与した。同時に、自ら居住する地域で本格的な舞台芸術作品を上演され、豊橋という場所に初めて来たキャストやスタッフが、劇場や地域の居心地の良さや、また訪れたいという感想を言葉にすることで自らの地域への誇りを持つことができるようになった。

また、人材養成事業では継続的に実施してきた「高校生と創る演劇」、「若手音楽家育成事業」を始めとする事業を通じて地域における舞台芸術人材・実演家を始めとする若い人材育成に寄与した。普及啓発事業では、とよはしアートフェスティバル2018「大道芸inとよはし」で、劇場という建物に中だけにとられない街を舞台にした大道芸を活用したアートフェスティバルの開催ならびに、運営ボランティア活動を市民と協働して行うことで、市民に新しい芸術体験の機会を提供し、舞台芸術をきっかけとして市民の新しい交流を促進し、文化を支える人づくりを行った。

劇場が連絡通路により直結する豊橋駅は、JR新幹線、東海道本線、飯田線、名鉄名古屋本線、隣接する駅も含めて多数の鉄道路線が伸び、加えて路面電車・路線バスなどの公共交通機関も集中し、「東三河の交通拠点」として位置づけられている。こうした立地条件を生かし、東三河エリアだけでなく関東圏・関西圏といった広範囲からも一定数の集客実績をあげている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

関東圏と関西圏の間地点であり、新幹線の駅直結であるという立地条件を活かし、首都圏で上演された優れた舞台作品やメディアでの露出度の高い俳優が出演する招聘上演をコンスタントに行い、初めての来場者を増やすとともに、舞台芸術に魅力を感じ繰り返し来場する観客を増やしてきた。優れた作品の鑑賞機会を繰り返し提供することで鑑賞眼を高めるとともに、トークやレクチャーなど作品鑑賞を補足する事業を行い、市民の舞台芸術に対する文化度を高め、舞台芸術鑑賞の満足度を高めてきた。それにより、さらに広範囲からの来場者も増えてきた。遠方からの来場者が増えることで、交通機関・宿泊・飲食等の利用、土産物の購入等による劇場周辺での経済効果も着実に上がってきた。

豊橋市は戦後すぐに文化協会が設立された地域であり、様々な古典芸能・伝統芸能などの実践者が多かった地域で、かつては首都圏などに歌舞伎・文楽など古典芸能の鑑賞を志向していた市民が多かったが、高齢化により地元での鑑賞機会を求められている。「野村万作・野村萬斎狂言公演」では、公演に先立って小学校5年生を対象とした「狂言ワークショップ」を開催し、古典芸能の新しい観客を開拓することも同時に行っている。

また、様々な作品を招聘することで、これまでは豊橋に来ることがなかったような著名人が豊橋を訪れ、劇場での上演だけでなく、周辺の飲食店や街そのものを楽しみ、それをSNS等で発信する機会も増え、それを見た市民が自ら居住する地域に対する誇りを獲得できるようになってくることで、劇場があることでの社会的意義が高まっている。

劇場の優れた活動により、周辺地域のイメージが高まり、近隣のマンションやテナントなどの価値が高くなる、空き店舗に新たな借り手が入るなど、経済波及効果も生まれている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

公演を伴う事業については、来場者アンケートの結果から、初めての来場者が25%、2～5回が35%、6回以上が39%であった。劇場が使用しているチケット販売システムの登録会員の購入履歴から、対象公演の購入者のべ1,372人のうち、1公演のみが79%の1,085人、2公演が12.5%の172人、3公演が3.9%の54人、4公演以上が4.4%の61人という実績だった。この結果から、同じ人が頻繁に来場しているのではなく、自分の好みに合わせて年に1回程度鑑賞し、そのペースで来場経験を重ねている観客が徐々に増えているという結果だった。

小劇場シリーズとして小劇場公演を7演目17公演上演した。小劇場セット券（4公演鑑賞で10,000円）を47セット販売するなど、のべ2,216人が小劇場公演を観劇した。

金銭的に余裕のない若い人や高校生の来場ハードルを下げるため、U24（24歳以下対象）・高校生以下などの割引料金を設定し年間616人の若年層の観客が来場した。

高齢者や、子育て中のお母さん層などをターゲットして、昼間の時間帯に気軽に足を運ぶことのできるワンコインコンサートを実施し、7公演で1,129人が来場した。平均入場率は81%となり、平日昼間の公演にニーズの存在が明らかになった。

プラットフォーム・財団維持会員の登録者数は2018年度1年間で、3,909人増え27,112人。メールマガジン登録者数は2018年度1年間で2,245人増え17,549人。

2018年度に上演した上演団体や劇団・アーティストから、また豊橋で上演したいと2020年度の企画提案が複数あった。

公演事業について、全公演に対し、入場者数目標を総客席に対し統一した比率で立てたため、目標まで達しない公演があった。今後は、公演ごとの入場者数・参加者数目標の立て方を見直し、より精度の高い目標値を設定する。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象となる全ての事業において、事業期間が適切であり計画通りに進んだ。また、ほぼ全ての事業において事業費は適切であり、当初の予定通り進んだ。ただし、チケット収入が見込み程上がらないことが想定された場合は、効率性を高めて支出執行を抑制するなどして収支差を当初の予定の範囲に収めることができた。

その中において、公演事業の「チルドレン」で本番二日目の9月30日公演の際に、非常に大型の台風の接近による殆どの交通機関の運休予告の影響があり、来場が不可能もしくは見合わせる観客が多くあった。前日の9月29日に本番を行いキャスト・スタッフとも予定通り上演できる体制にあったため公演は予定通り実施したが、来場出来ない観客については、チケット代の払戻対応を行うこととなり、払戻の手数料が想定外の支出となるとともに、当初の予定通りの収入を上げることが出来なかった。

人材養成事業で実施している「高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを』」では、最終的なアウトプットとして演劇公演として11月に4ステージ上演したが、前年度の2月の東三河高校演劇部の大会最終日から4月末まで参加者を募集。5月下旬にオーディションワークショップ、8月にオーディションで選ばれた出演者と高校生スタッフを対象とするプレワークショップ、その後高校生達による自主稽古、9月下旬から約40日間演出家・演出助手が豊橋に滞在して、平日は夜、土日祝日は昼・夜で稽古を行い、集中した創作活動を行った。最終的には3月に演出家・演出助手、高校生出演者・スタッフと記録映像上映会を行い、最終的な振り返りを行った。募集告知から約1年間という期間を掛けて、高校生という多感な時期に濃密な演劇創造の時間を体験することで、参加した高校生達は、前向きな思考と行動力を獲得した。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

平成30年4月より、俳優の平田満に変わり芸術文化アドバイザーに劇団KAKUTAの主宰であり、劇作家・演出家・俳優の桑原裕子が就任した。就任前年に平田満出演、桑原裕子作・演出による穂の国とよはし芸術劇場PLATプロデュース「荒野」が、第5回悲劇喜劇賞ならびに、第70回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞するなど、地域の小さな劇場が創造発信したオリジナル作品が高く評価された。

その桑原裕子が、構成・脚色・演出を務めたPLAT小劇場シリーズのKAKUTA「ねこはしる」は、工藤直子の童話を、キーボーディストの扇谷研人、ボーカリストの花れんとともに、ミュージカル形式で全く新しい音楽とお芝居が一体となった作品として創造し、親子が一緒に楽しみ、観劇体験を共に語り合うことができるような作品の鑑賞機会を提供した。

芸術文化プロデューサーを務める矢作勝義は、世田谷パブリックシアターでの幅広い勤務経験や劇場・音楽堂等連絡協議会演劇部会事務局等の経験と全国的な公共劇場とのネットワーク力を活かし、事業全体をバランス良く組み立てている。

人材養成事業で実施した「高校生と創る演劇『滅びの子らに星の祈りを』」は、演出チームとして首都圏で活動する若手演出家と演出家と活動している俳優を演出助手として起用した。彼らは、オーディションから公演まで、のべ50日間豊橋に滞在した。演出家チームにとって、日常生活から離れ演劇創作活動に集中できる環境下で、スポンジのようにあらゆることを吸収する高校生達と濃密に稽古を行うことは、自らの演劇活動の原点を見つめ直す機会ともなり、若手演劇人の人材養成としても機能した。小劇場であるアートスペースで2日間4回公演を有料上演するため、それに見合うクオリティを追求し、演出家チームと高校生出演者・スタッフが丸となり作品を創造した。上演会場に隣接し舞台サイズと同じ広さの創造活動室Aで稽古を実施した。上演会場隣接ということもあり、上演する場所の雰囲気自然となじみながら稽古を進めることができた。劇場が空いている際には、劇場を使って稽古をするなど、演劇経験の浅い高校生出演者達が能力を発揮できるような稽古環境を構築した。

美術・照明・音響・衣装といったプランナーもプロのスタッフを起用した。スタッフとして参加した高校生達は各人の能力と興味を活かしながらプロスタッフのアシスタントを務めた。製作工房という道具・衣装などの製作スペースがあり、稽古と同時進行で衣装や道具づくりを行うことができた。製作物は出来上がると稽古場で試着や、試用などしながら修正作業を的確にかつ迅速に行うことができた。稽古・仕込などのプロスタッフの仕事ぶりやアシスタント作業を通じて、舞台創造に関わるスタッフ業務の内容を具体的に知ることができ、舞台美術など新しい道への希望者や芸術系大学に進学する卒業生など、地域の実演家・舞台芸術人材の育成に寄与した。

高校生活がある中で稽古だったので、高校生達は非常に忙しかったが、高校生出演者・スタッフを対象に行った事後アンケート結果では、満足度はほぼ100%であった。また、「前を向いて、とりあえず進んでみようという気持ちが強くなりました。」「とてもネガティブな性格でしたが、参加して、前より自分を好きになることができ、『どうせ』という口癖もあまり使わなくなりました。」「台本に書かれた台詞を深く考えるように物事一つ一つ深く考えるようになりました。」という意見が寄せられ、演劇づくりを通じて、自己肯定感の獲得、思考能力の深化・開発といった人間形成にとってプラスの結果がもたらされた。単発的に同種の事業を実施する例はあるが、継続的に実施しノウハウや人的な繋がりを維持し、この事業から生まれる成果を重層的に積み重ね地域人材の育成に関して劇場の機能を最大限に活かしている。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

劇場という建物としてのハードウェア機能と組織としてのソフトウェア機能を最大限に活用し、舞台芸術の鑑賞人口の裾野を拡げ、鑑賞機会を増やすことを目的に事業を行う。加えて、舞台芸術の知識や経験を深め、新しい価値観や人との出会いの場を提供することで、舞台芸術の実践人材を増やし、地域の実演芸術の振興を図った。

首都圏で上演される優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を東三河市民に提供することが開館当初より強く求められ、現代演劇、古典芸能、舞踊、音楽といった作品を、関東と関西の中間点にあり新幹線が停車する駅と連絡通路で直結している劇場の立地条件と、本格的な舞台作品をそのまま上演可能な舞台設備、そしてプロデューサーの幅広いリサーチ力を活かし、上質な作品を幅広くコンスタントに上演することで数多くの来場者を迎えることができた。来場者アンケートでは、公演内容の満足度は76.1%、舞台の見やすさという鑑賞環境についての満足度は76.4%、スタッフの対応の満足度は75.4%という結果だった。いずれも「どちらともいえない」という回答が約25%あることから、この層の満足度を高めることが今後の課題である。

市民との対話の機会を設け、劇場の活動について広く認知してもらう機会として、年度当初にプログラム説明会を開催している。事業意図や内容を芸術文化プロデューサーが直接市民に説明するとともに、市民の疑問や要望を聞く機会を設け、劇場という場所の敷居を低くし、市民が気軽に様々な形で劇場を活用してもらえそうな場づくり・雰囲気醸成をおこなっている。

教育委員会と連携し、市内の小学校・中学校・特別支援学校等へ出向いて演劇・舞踊・音楽のワークショップ事業を実施している。これを拡大するため、ワークショップを実践するファシリテーター（進行役）人材を地元地域で育成する養成講座を実施している。年度末には、学校行きワークショップも含めてワークショップ事業全体の報告会を開催し、その成果を広く周知する機会を設けている。報告者は、講座参加者、講座卒業生などで、自らの経験をリアルな言葉で伝えるとともに、発表することで自身の活動を客観的に振り返り、言語化し、その成果を深く理解することに繋がっている。教員や市職員を始め、他の劇場スタッフ、大学生などが参加し、この種の事業の可能性についての理解を深め、ワークショップを自分のまわりで活用する可能性を発見する場となっている。実際に、大学教授が保育士を目指す大学生の授業でワークショップを活用するなどの実践例が出ている。また、講座卒業生からは学校行きのワークショップのアシスタントやコーディネーターを務める人材が育っている。

とよはしアートフェスティバル2018「大道芸inとよはし」では、豊橋駅直結という立地条件を生かし、劇場だけでなく、駅前の広場や目抜き通りの歩行者天国、親子向けの施設などの駅周辺の複数会場で開催し2日間で27,000人の市民が訪れた。まちなかを回遊するとともに、経済的な問題や、小さな子どもがいる、在日外国人で日本語が理解できないなど様々な理由から、劇場での舞台芸術の鑑賞機会の少ない市民に、一流のパフォーマンスとまちの魅力を無料で堪能する機会を提供した。駅前エリアの賑わいづくりに貢献するとともに、まちなかの活性化と地域の文化芸術の発展に寄与した。

高校生と創る演劇「滅びの子らに星の祈りを」では、演劇作品の創作過程を深く体験することで、自ら課題を発見し、仲間とその解決策を協議し、解決のために実践するという行動力を身につけるとともに、積極的に物事に取り組む姿勢を獲得する機会となった。実演芸術の道に進む卒業生もでてきており、地域の文化振興に貢献するとともに、舞台芸術以外の分野においても、その能力を発揮し今後の地域を支える人材として成長が期待されるような成果が生まれている。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

雇用面では、初年度に嘱託職員として採用した職員を2年目から4年間の任期付き職員に転換、勤続6年目以降は無期雇用職員へ転換し、平成31年には無期雇用となった事業制作部職員は全体の半数を超える6名となった。また、平成30年度は出産に伴う産前・産後休業並びに育児休暇を取得した職員もあり、令和元年度より復職を予定している。

事業運営面では、公演アンケートで「職員の対応」についての5段階評価と自由記述欄を設けている。アンケートは全てデータ化し、職員全員で結果に目を通し、来場者からの意見を反映した事業運営や体制づくりに取組む材料としている。

また、事業制作部職員が全員出席の月例会議では、劇場運営全体における戦略や進捗状況の確認、課題や問題の洗い出しを行い、改善策を協議し実行に努めることを定期的に行うことで、相互の理解を深めスキルを高めると共に、組織としての経験を蓄積している。

職員の人材育成面では、他組織での研修費用や、舞台公演の鑑賞経費を一定額を上限に補助している。約40公演の鑑賞と、文化庁、（一財）地域創造、アーツカウンシル東京、SLOWLABEL等が主催するセミナーや研修に参加した。特にセミナーや研修での学びは実践に繋がる内容も多く、事業を実施・計画する上で非常に有意義であった。

経営面では、特定費用準備資金（地域還元人材育成事業積立金）を用意し、将来の地域を担う事が期待できる人材養成事業を長期的・継続的に実施するための財源を確保している。また、地元企業を中心とした目的を特定した協賛金の獲得にも取り組んでいる。さらには、個人や地元の文化団体・法人が劇場の活動全体を金銭的にサポートする支援会員制度（財団維持会員）があるが、平成31年度からは新たな会員制度（特別賛助会員）を設け、支援会員制度の充実とより多様な外部資金調達の手段を構築して、長期的・安定的な経営を目指している。